

# J-MILK REPORT

私たちはミルクでつながっています。

SPRING 2020 Vol. 36



# 酪農乳業の未来を拓く 戦略ビジョンが冊子に

Jミルクでは昨年10月、提言「力強く成長し信頼される持続可能な産業を目指して」わが国酪農乳業の展望ある未来に向けた戦略ビジョン」を公表しています。このほど、用語解説等を追加した冊子を発行しました。酪農乳業のあるべき姿を探り、関係者が考えるきっかけとして、本冊子を研修や勉強会などでご活用いただくと幸いです。

## 戦略視点を共有 自覚的な活動を

「提言」は、酪農乳業が持続可能な産業構造を構築するための諸課題や中長期的な戦略視点、政策的な取り組みについて、約1年間に及ぶ業界内の協議を得て、生産者と乳業者が初めて共同で出した声明です。昨年10月23日の公表と同時に、農水省に対しても提言内容が国の酪農乳業政策に反映されるよう要請を行ってまいります。



ミルクバリューチェーンに関わる全ての関係者が戦略視点を共有し、政策的支援も得ながら、自覚的に取り組みを推進することが重要です。冊子はデータのほか印刷物（数量限定）でもご提供します。この機会にぜひご一読ください。

### 持続可能な発展に向けた 3つの戦略視点

- 【成長性】** 乳の価値を高め、産業規模を維持・拡大し続ける
- 【強靱性】** 経験のないさまざまな変化に弾力的に対処する
- 【社会性】** 社会の要求に応え、消費者の信頼と共感を得る

### 戦略視点の実現を支える 3つの行動特性

- 【未来志向】** 産業の未来の姿を展望し、将来世代にリスクを先送りしない
- 【多様性理解】** 多様な価値観やスタイルを認め、共存できるようにする
- 【自律性】** 全体最適化に貢献するため、自らの行動を制御し他者と協調する

## 「提言」を解説する講師をJミルクから派遣します

「提言」の内容をわかりやすく解説する講師（Jミルク役職員）を無償にて派遣します。酪農乳業関係者の皆様が開催されるセミナーや、研修・勉強会などの機会にご利用ください。

お問い合わせ

一般社団法人Jミルク  
広報グループ  
TEL: 03-5577-7492  
FAX: 03-5577-3236  
MAIL: info@j-milk.jp

冊子版ダウンロードは  
こちら



# 乳・酪農には“価値”がある 若手に“好機”のメッセージ

「提言」を読んで――

全国酪農青年女性会議・小森 崇宏 委員長に聞く

現場の酪農家や関連団体は「提言」をどう受け止め、今後の活動に生かそうと考えているのか、全国酪農青年女性会議の小森崇宏委員長にインタビューしました。



小森 崇宏 (こもり たかひろ) 氏 全国酪農青年女性会議 委員長

栃木県那須烏山市で搾乳牛42頭、育成牛(自家育成)31頭を飼養し、他にデントコーン(約9ヘクタール)、イタリアンライグラス(約1ヘクタール)、水田(約4ヘクタール)などを栽培。2017年から全国酪農青年女性会議委員長を務める。

## “搾れる”時代の酪農に、それぞれの視点で参加を

――「提言」に目を通されて、どう感じましたか？

海外情勢や消費動向、アンチミルクなどの現状やトレンドを踏まえ、酪農乳業界が今後目指すべき方向性が整理されています。酪農家や農協、乳業などが将来像を描くための題材や考え方が示され、それを自分の経営に落とし込んで目標を定めることができる意義は大きいと思います。

――内容のうち、心に響いたのは主にごどの部分ですか？

私人としては、「価値を高めていこう」という部分ですね。牛乳乳製品や酪農の価値を高めるための取り組みが書いてあります。例えば、地元の青年部支部が子ども向けに搾乳体験をやっているんです。それをきっかけに、いつも牛乳を残していた子が飲むようになったという話を聞くことも多いです。こうした取り組みは、酪農の価値を高めるためにもプラスになっていたんだな、酪農だからこその社会への貢献なのかなと再認識しました。普段、酪農家としての自分の仕事を

しているだけだと、なかなかそこに気付く機会はないかもしれません。

また「社会の要求に応える」と行動計画が掲げられています。近年、私の周辺も含めて、酪農家が「米を作ってほしい」「うちの田んぼを耕してほしい」と頼まれるケースが多いんです。米農家の多くが兼業で年齢もどんどん高くなり、なかなか後継者が見つからない状況で、地域の農地を守るために酪農家が頼りにされる。それに応えることも、地域から期待される重要な役割なのだなと思いました。

酪農女の委員長としては、二つのことを感じています。一つは、この提言を多くの若手に知ってもらい、個人や地域などさまざまなレベルで将来を考えるために活用してほしいということ。二つめは、消費者など業界の外部に対して、酪農乳業の現状や取り組みを理解してもらうためにも、この提言を使えるということです。

生乳生産目標数量(最大800万トン)も記載されています。これだけ必要とされるということは若手酪農家の心に響くでしょうし、「これからの酪農にチャンスはある」というメッセージになると思います。





妻の美佳さんと小森牧場を切り盛りする小森さん



小森さんの新しい牛舎は、屋根部分からも採光できるようにするなど環境を明るくする工夫が凝らされている。

自分が就農した時は（乳価が上がっておらず飼料代も高騰したため）、乳を「搾るな」という時代だったのですが、今は違います。そこを考えたとき、若い人ならば、投資をして、牛舎を建てて、と考えるでしょう。それが一つの方向性。でも、高齢で後継者もないというような酪農家——高齢の酪農家へのアプローチも重要ですから——にも、このメッセージは響くと思います。こうした方々で、「廃用をできるだけ出さないように気を付けよう」とか「もう1産搾ってみようかな」と思う人が出てくると環境は違ってくると思

います。生産量を「増やす」だけじゃなく、「落とさない」ということも大事ですから。

——小森さんは会社勤務の後、実家を継いで就農されたんですね。当時と今とで「時代背景」はだいぶ違いますか？

大学を出て県外で就職した後、結婚して栃木に戻ってきたのですが、戻っても忙しく、両親とはなかなか時間も合わなくて込み入った話ができませんでした。でも30代半ばに差し掛かり、実家を継ぐには

「これがラストチャンス」と思い、決心して2006年、35歳の時に就農しました。両親には何の相談もなく、一方的に「会社やめて家に入るよ」と告げて就農したような感じでしたね。

ただ、就農時は、あと数年で酪農を廃業してもおかしくない状況でした。父が他の仕事で家を空けることも多かったですし、私が就農予定と確定していなかったため、親としても規模拡大や新たな設備投資に踏み切れなかったんですね。

まず、牛舎の環境を変えようと考えました。会社員時代に衛生管理について知る機会もあり、衛生面や、牛舎が散らかっていたことが気になったんです。意識的に修理や掃除、整理整頓をするなどしました。今では牛舎は1日に最低4回消毒を行い、定期的に牛舎全体の掃除をするようにしていますし、敷地内に花も植えています。飼養の面では、酪農とちぎの技術顧問や飼料会社に教わりながら改善を試みていきました。

ただ最初は、にっちもさっちもいかなかったですよ。就農直後の1、2年は乳価が上がる前で、餌は高かったですから。減産している時代

で、搾っても枠を超えるとペナルティーでしたし、頭数も増やせない。最初の半年ほどは「駄目かな」とも思いましたが、1、2年すると乳質が上向いてきて、乳価も上がったので経営が改善しました。

だからこそ、昔と違って今は「搾れる」環境にあるということは、実体験を踏まえて若手にアピールしたい。それだけ、儲かるチャンスがあるということです。そういう部分がないと、やりがいも出てこないですよ。

——Jミルクにはどんなことを期待されますか？

私たち生産者はどうしても乳業との接点がありません。しかしJミルクは酪農乳業の団体であり、双方の間を取り持つことができます。乳業が酪農に求めるもの、酪農が乳業に求めるものが、うまくマッチして、良い方向に行けるために力を尽くしてほしいと思いますね。

特集の詳細はこちら





# 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業の 実績・成果について

(一部抜粋)

## 1. 酪農生産基盤強化事業

### (1) 乳用牛資源緊急確保事業(乳用牛の輸入)

事業の3年間で豪州から2,077頭の乳用牛を輸入し国内に供給。

仮に輸入乳用牛が延べ2,077頭がフル生産した場合、年間の生乳生産量1.6万トンの押上効果が期待できる。【(2,077頭)×(7.5トン/年間)÷1.6万トン】

初妊牛価格が高止まりする中、規模拡大中の地域・酪農家に対し、乳用牛資源を安価に供給し生産量の維持・拡大に貢献するとともに、酪農家の乳用牛資源確保に際し、購入先の多様化を図ることで、経営の選択肢を広げられる可能性を提示することができた。(表1)

乳用牛の輸入実績(頭)

表1

	全農	全酪連	熊本県酪連	合計	助成額(千円)
2017年度	262	167	278	707	81,549
2018年度	425	171	175	771	80,565
2019年度	599	—	—	599	78,892
合計	1,286	338	453	2,077	241,006



枠内は九州の酪農家へ供給された輸入牛

### (2) 生乳増産対策特認事業

2年間の事業実施で2,275万円の助成を行い、預託増加頭数は延べ8,126頭分(12ヶ月で割戻すと677頭分の預託容量増加)。若齢預託施設の拡充により、①育成負担の軽減、②育成の外部化による牛舎スペースの有効活用、③自家育成を促進し、生乳生産の増加や安定した酪農経営の実現を後押し。

### (3) 地域生産基盤強化支援事業

#### ① 乳用牛育成基盤強化対策

新增施設や廃業酪農家の育成転換支援に、3年間で2億357万円を助成。預託頭数は延べ13万4千頭(1か月あたりでは1万1千頭分)の預託能力増加。

#### ② 乳用後継牛増頭対策

乳用後継牛増頭対策は、酪農家が乳用種の種付け・

出生を増加させる取り組みを評価し、前年度より乳用種が増加した4,080戸・21,043頭へ定額助成。(2018年度20,000円/頭)(表2)

乳用後継牛増頭対策実績(2018年度)

表2

	計画時参加戸数(戸)	参加率	助成戸数(戸)	助成戸数割合	助成頭数(頭)	助成額(千円)
北海道	3,402	62.0%	1,499	44.1%	9,854	197,080
都府県	6,597	82.4%	2,581	39.1%	11,189	223,780
全国	9,999	74.1%	4,080	40.8%	21,043	420,860

#### ③ 供用年数延長促進対策

供用年数延長促進対策は、酪農家が乳用牛の供用年数を延長し経産牛の生存率を向上させる取り組みを評価し、例年よりも増加したと推定される3636戸・8,619頭へ定額助成。(2018年度5,000円/頭)(表3)

供用年数延長促進対策実績(2018年度)

表3

	計画時参加戸数(戸)	参加率	助成戸数(戸)	助成戸数割合	助成頭数(頭)	助成額(千円)
北海道	3,338	60.8%	1,162	34.8%	3,204	16,020
都府県	6,373	79.6%	2,474	38.8%	5,415	27,075
全国	9,711	72.0%	3,636	37.4%	8,619	43,095

## 2. 国産牛乳乳製品高付加価値化事業

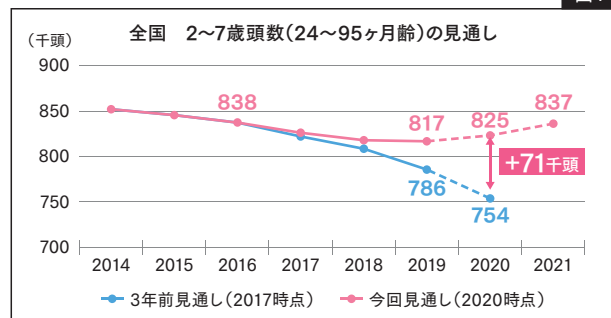
2017年度に全国乳業協同組合連合会が中小乳業向けの商品開発・受委託などの方向性を示した手引書を策定したほか、農協乳業協会や各県牛乳協会に対し、3年間で延べ17団体にHACCPや風味変化対応、商品開発など研修への助成を行った。

## 3. 事業実施後の乳牛頭数の見通しについて

2~7歳の乳牛頭数は、事業開始当時(2016年度)見通しでは、2020年までに754千頭(-84千頭)まで減少。

直近の見通しでは825千頭(-13千頭)と71千頭の改善。2021年度も引き続き増頭見込み。(図1)

図1



2020年2月に開催した  
事業説明会の資料はこちら





Jミルク専務理事  
まえだ ひろふみ

前田 浩史

対 談

株式会社ホリ乳业代表取締役  
ほり はつし  
堀 初治 氏



# “この指とまれ”の精神で 地域の力を経営に生かす

1932年創業のホリ乳业株式会社(石川県金沢市)は、自社牧場でつくる地元産牛乳のおいしさを前面に出した商品づくりを軸に、地域に根ざした経営を続けています。産学連携での商品開発や地域社会とのつながりを深める取り組み、酪農乳業の国際化への対応など、経営の現状と今後の展望をお聞きました。



## 経営資源をフル活用して 「売りたい」商品を届ける

前田浩史(以下、前田) 御社の経営方針と商品開発の特徴をご紹介します。

堀初治氏(以下、堀) 一言で表すと「この指とまれ」の考え方です。金沢という立地や自社牧場(河北潟ホリ牧場)などの資源を最大限生かしながら、自分たちが良いと信じるものを、売りたいと思うものを商品化して、その姿勢に賛同していただける皆さんと一緒に歩んできました。

弊社は20年以上前からヨーグルト製造を行っており、現在は売り上げの5割以上を占めています。

金沢大学医学部と連携して開発し

た、県産のハトムギエキスを使った「金沢ヨーグルト」や、フランスの海岸松の樹皮から抽出された天然成分ピクノジェノールを加えた商品など、他社さんが手がけていないユニークなヨーグルトの開発も積極的に行っています。

商品づくりで一番こだわっているのは生乳比率と乳酸菌です。地元産の牛乳をたくさん使って、他の素材の風味とバランスを取りつつ、牛乳のおいしさを前面に出した商品を提案しています。

開発と並んで課題になるのが販売チャネルの確保です。石川県は工芸関連の産物が豊富で物流や販売網も整備されているのですが、冷蔵品への対応は、県の取り組みもやや手薄なところ





商品開発のコンセプトは「まごころ+本質+独自性」。低温保持殺菌法や腸内乳酸菌に特化した発酵法などの技術を加えることで、生乳本来のおいしさを引き出す。

株式会社ホリ乳業  
 (本社)〒920-0361 石川県金沢市袋島町北62  
 TEL 076-267-2740  
<http://horimilk.co.jp>

株式会社ホリ牧場/有限会社 夢ミルク館  
 〒920-0263 石川県河北郡内灘町湖西243  
<https://yumemilk.co.jp>

対談の詳細は  
こちら



## 地域の関連団体とも連携 牛乳の価値を市民に発信

**前田** コミュニケーション戦略でも地域との結びつきを重視されていますね。

**堀** 金沢骨を守る会や発酵食大学など、食と健康関連の地元団体と連携して市民向けフォーラムなどで情報発信しているほか、牧場がある河北潟周辺の農作物をPRする催しにも協賛しています。

また最近SNSの活用にも目を向けています。対外的な発信はもちろんですが、社員のモチベーションや帰属意識の向上といった効果も期待しています。

**前田** 大山乳業(鳥取県)のように、社会とのつながりをつくる活動に若い社員がチームで参加する事例が参考になりそうですね。若い人材のマネジメ



ントでは管理職が学ぶべきことも多いですから、研修機会をつくることも大切です。

Jミルクの酪農乳業産業基盤強化特別対策事業では、酪農家や地域と連携して行う社会貢献活動や管理職向けの研修活動も助成対象になるので、こうした支援もぜひ活用してください。

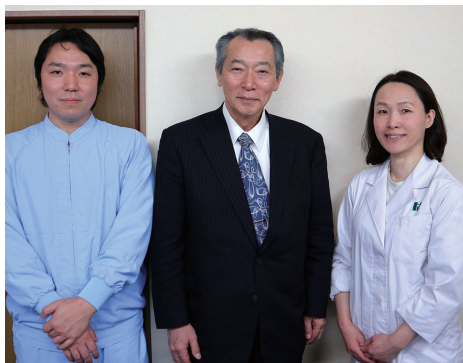
## 地元産牛乳の大切さを 社会に伝える努力も必要

**前田** 経営の強みを生かした今後への展望はどうお考えですか。

**堀** 商品面の強みであるヨーグルトについては、新工場の整備で生産能力を拡充する予定です。今後はヨーグルトと地元産の牛乳をセットにした販売戦略により、牧場を持つ強みをさらに磨いていきたいと思っています。

**前田** SDGsの普及に伴い、地域循環型経済に貢献する動きが企業に広がっている中で、地元産品への関心は高まっていくはず。一方で国際化の影響についてはどう見られていますか。

**堀** 脅威であり、チャンスでもあるという認識です。ヨーグルトも賞味期限の長い一部の商品などは海外から入ってくる可能性があります。地域の酪農生産を守るためにも、海外製品に対抗できるものをつくっていくことが私たちの役割です。



(左)専務取締役 製造部長 堀初弘氏 (中)代表取締役 堀初治氏 (右)品質管理課 室長 下村比呂美氏

加えて、地元の新鮮な食材を摂る価値を消費者に伝えていく努力も大事だと思います。日本では低温殺菌牛乳のシェアが伸び悩んでいます。例えばIDF(国際酪農連盟)などを介して世界の牛乳事情が国内にも知られるようになれば、消費者も地元産牛乳の大切さを見直してくれるのではないかと。この点はJミルクさんからの情報発信にも期待しているところです。

**前田** 欧米で始まった変化が遅れて国内に入ってくることは多いので、海外のマーケットや消費志向の変化には常に目を配っておく必要があります。昨年4月にJIDF事務局がJミルクに統合されたことを受け、今後は定期的に世界のマーケット動向を発信する予定です。地域乳業の経営にも寄与する情報をお届けしていきたいと考えています。本日はありがとうございました。



# 牛乳を通して学ぶ 地域の魅力と食の大切さ

帯広市立森の里小学校 × 酪農乳業関係者

帯広市立森の里小学校では、地元の基幹産業である酪農乳業に携わる人々と子どもたちが対話をする「ふるさと学習」を実践している。地域に定着する教育活動を目指す学校、酪農乳業関係者が一体となって支える取り組みは、今年で2年目を迎えた。子どもたちの学習の様子と関係者の思いを同校で取材した。



## 教員と酪農家の協働で 特色ある学習活動に

帯広市教育委員会では、「環境教育」「食育」「地域総ぐるみ」を重視した特色ある教育活動をサポートする、「おびひろっ子絆支援事業」を展開している。森の里小のふるさと学習も昨年度から支援を受け、全学年で学習プロジェクトを実践している。

1〜6年生全員が参加する活動として、10月の「子牛ふれあいファーム」がある。校区内のリバティヒル広瀬牧場から子牛を借り受け、数日間お世話をしながらふれあいを楽しむ。

加えて、4年生は同牧場の見学、5年生は地域の酪農乳業関係者から仕事の内容を聞くキャリア教育講演会、6年生はシェフの指導で牛

乳製品を使った料理づくりに取り組む。

教務主任の高橋淳一教諭は、プロジェクトを企画したきっかけを、同牧場代表の廣瀬文彦氏との出会いだと振り返る。

「校区内の牧場として学校の役に立ちたい」という廣瀬氏と、「学校と地域に根づく教育活動をつくりたい」とする教諭の思いが一致。学校側の考えや育てたい子ども像、酪農家としての願いなどを語り合い、協働で構想を練り上げた。

同校では以前から、乳業メーカーの工場見学や獣医師の出前授業などで酪農乳業と接点があった。「単年度のイベント的扱いだった諸活動を、ふるさととのよさを学ぶという視点で再構成することで、学習のつながりができた」と言う。

## ゲスト講師との対話で 酪農乳業の仕事を知る

2月6日に行われたキャリア教育講演会には、廣瀬氏ら6人のゲスト講師が招かれた。

冒頭で講演した廣瀬氏は、NHK連続テレビ小説「なつぞら」の監修を務めた際のエピソードを紹介したほか、酪農家の仕事内容や牛の体の構造と消化のしくみ、乳牛の成



廣瀬氏(左)と高橋教諭は共に、「十勝型」の学校・地域連携として、この活動を根づかせたい」と話す。





平田氏(写真・左)と中川氏(下)による講話。  
 この他、水村亮平氏(十勝獣医師会)、下村初実氏(帯広市学校給食センター)、西村修一氏(北海道帯広農業高校)もゲスト講師として子どもたちの学習を支援した。



長、牛乳の製造工程などを説明。「人間が食べられない草を食べて牛乳に変えてくれて、成長も早いから、人の役に立つ動物として昔から牛は飼われていた」と語った。

子どもたちはこれまでの牧場見学や子牛とのふれあいを通じて、牛や酪農に対する興味を深めている様子で、「牛の糞はどう再利用されるのか」「餌は何種類あるか」「牛の種類による牛乳の違いは」といった質問を廣瀬氏に投げかけていた。

続いてゲスト講師による個別発表があり、子どもたちは各自の知りたいテーマに対応したブースを選択し、講話を聞いた。

中川康寿氏(明治なるほどファクトリー十勝見学施設長)は、牛乳乳製品の生産と供給プロセスのほか、SDGsや牛乳パックリサイクルの取り組みなどを紹介した。講話の後、「多様な酪農乳業関係者と対話できるこうした場を通じて、子どもたちには身近なミルクがどうやって循環しているかを知ってほしい」と話した。

## 地域と協働で実践する ふるさと学習のモデルに

「ミルクといのち」をテーマにした平田昌弘氏(帯広畜産大学教授)の

講話では、「1ℓのミルクをつくるために、牛は500ℓの血液を使っている」「ミルクは牛の命を頂いていることになる」との説明に子どもたちが驚きの声を上げていた。平田氏は、「酪農は面白い、大切だと感じる子どもたちが増え、これからの酪農を開拓する人材に育ってくれたらうれしい」と同校の取り組みに賛同する。

市では絆支援事業の下での各校の実践を整理し、小中9年間で体系的に学ぶプログラム「おびひろ市民学」として、来年度から市内全校に導入する。学校と地域が連携し、定着する活動を目指してきた森の里小のふるさと学習も、市民学の一部として継続していくことになる。

「食料の生産者から消費者までのつながりの大切さと、多くの人々の支えがあって酪農が成り立っていることを、子どもたちに伝えたいと考えて続けた」という廣瀬氏は、「その思いがふるさと学習で形になった気がするので、いまは楽しみながらお手伝いをしています」と語る。

高橋教諭は、「地域人材と連携した特色ある学習は、全国どこでも取り組める」とし、「本校の実践がひとつのモデルとなつて、ふるさとのよさを学ぶ活動が多くの学校に広げば」と期待を寄せている。

## 学習の積み重ねによる成長を実感します

高橋 淳一 氏 (たかはし じゅんいち) 帯広市立森の里小学校 教務主任



実践はまだ2年目ですが、子どもたちの牛との接し方や講師への質問内容からも、体験と学習の積み重ねによる成長、新たな知識技能の定着を実感しています。十勝・帯広で育つ子どもたちには、地元の農業や酪農を理解し、大人になっても話ができるようになってほしい。そのための活動を地域の皆さんと一緒に実践し、学校に定着させていくことは、私たち自身がふるさとを大切にすることにもつながると思っています。



# ミルクの達人 1 Dayセミナー

今こそ知りたいミルクの価値

2019年度

2019年度は宮崎県、岡山県、岩手県で開催しました。

「ミルクと全国の酪農乳業団体が連携して実施する「ミルクの達人1Dayセミナー」が、宮崎・岡山・岩手の3会場で開かれました。酪農女性部総会との同時開催や搾乳に間に合う時間帯にするなど、酪農乳業関係者が参加しやすくなるように各地域で工夫をし、参加者は総勢221名。

酪農乳業の歴史とスポーツ栄養の視点から、ミルクの価値を再確認する1日になりました。



**日時・場所** 九州会場(宮崎県・宮崎市)  
2019年12月13日(金) 11:00~14:00  
中国会場(岡山県・津山市)  
2020年1月24日(金) 12:30~14:30  
東北会場(岩手県・盛岡市)  
2020年2月17日(月) 11:00~14:00

**演題・講師** 講演1:「ミルクが支えるスポーツ栄養の価値」  
鈴木 志保子 氏(一般社団法人日本スポーツ栄養協会 理事長)  
講演2:「酪農乳業における先人たちの教え」  
和仁 皓明 氏(西日本食文化研究所 主宰)

## 後援

一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人日本乳業協会、全国農業協同組合連合会、全国酪農協同組合連合会、全国農協乳業協会、全国乳業協同組合連合会、一般社団法人全国牛乳流通改善協会

【九州会場(宮崎)】宮崎県牛乳普及協会、宮崎県経済農業協同組合連合会(JA宮崎経済連)、九州生乳販売農業協同組合連合会、九州牛乳協会

【中国会場(岡山)】おかもや酪農協同組合、岡山県酪農乳業協会、中国生乳販売農業協同組合連合会

【東北会場(岩手)】岩手県牛乳普及協会、全国農業協同組合連合会 岩手県本部、東北生乳販売農業協同組合連合会、東北乳業協議会

「乳と食減塩みそ汁」付きのランチを楽しみながら講演を聴くスタイル。講演後には参加者とのトークセッション(意見交換)も行いました。後援団体様からも制作物を提供いただき、展示ブースにて情報発信しました。



九州会場（宮崎県・宮崎市）

日本の酪農乳業の歴史を改めて学び、自らが関わってきた宮崎酪農を思いながら、生処が車の両輪で日本の牛乳乳製品を支えてきたことを感じた。アスリートのスポーツ栄養学は、乳牛がミルクを出す能力を向上させるための栄養学と似ている。多くの人を救ってきたミルク。車の両輪の運転手はJミルクだと思っている。今後の活動に期待したい。



石川 幸保氏  
宮崎県酪農協議会 会長

最近の健康診断で血圧が高くなっており、これまで血圧で指導を受けたことはなかったので、気にしているところに、鈴木先生から減塩につながるお刺身の食べ方を教わりました。今はその食べ方を実践しており、おいしくいただいています。これからも減塩に努めていこうと思います。Jミルクさん、貴重なセミナーを宮崎で開催していただき、誠にありがとうございました。



今井 弘高氏  
JA宮崎経済連  
酪農飼料部・酪農課 課長

白水舎乳業は工場見学で牛乳ができるまでを説明しています。牛乳乳製品は体づくりや心の健康に重要であることをこのセミナーで再認識しました。

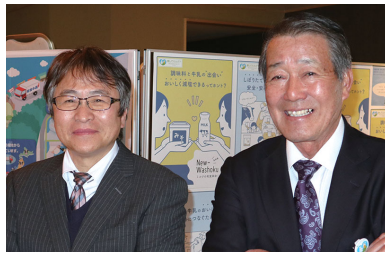


都成 峰子氏  
有限会社白水舎乳業  
総務課

「牛にいただく命の白い水」は先人やたくさんの方の努力で人々の元に届きます。コロナ自粛で窮地の中、生きる上で大切な栄養源であることを業界関係の皆様と共に広げていこうと思います。

中国会場（岡山県・津山市）

1人でも多くの生産者に参加してもらいたいというJミルクとおからくの思いが今回の総会と同時開催という形になりました。時間の制約もあったためプログラムを変更して対応していただきましたが、内容の濃い講演に参加者も大満足でした。こちらの要望に沿う開催にしてください本当に感謝しております。



小椋 孝史氏  
おかやま酪農協同組合  
事業本部長

岡田 穂積氏  
おかやま酪農協同組合  
代表理事組合長

スポーツ栄養と牛乳の関わりを初めて知り、自分の生活にも取り入れてみたいと思いました。和仁先生の講演では、山間地の多い岡山酪農の歩みを振り返ることができました。本セミナーは女性部の総会



小倉 越子氏  
おからく女性部  
委員長

小林 やす枝氏  
美作地区女性部  
部長

と同時開催。酪農知識を学ぶ場に夫婦一緒に参加することで、女性も酪農経営により積極的に参画できるようになると感じました。

東北会場（岩手県・盛岡市）

ミルクの価値をスポーツ栄養学から捉えた「目からウロコ！」のお話と、南部藩時代からの乳業の歴史など興味深い内容でした。県内の酪農女子会の皆さんや栄養士さん、栄養学専攻の学生さんと多くの乳業者が熱心に聞き入り、酪農乳業の素晴らしさを再確認するセミナーとなりました。盛岡市での開催を企画いただいたJミルクの皆様に感謝申し上げます。



大鷲 秀明氏  
岩手県牛乳普及協会  
専務理事

大勢の方に参加いただき関係機関には、ご協力ありがとうございました。

鈴木先生の講演では、食べるという毎日していることを難しくなく、時に笑いが起きる楽しい時間を過ごし、和仁先生には、南部藩での搾乳から小岩井農場に至る歴史的経緯など、関係者としても感心する講演をいただき一般の方にも関心を持ってもらえる機会になりました。



丸田 博氏  
全国農業協同組合連合会  
岩手県本部 酪農課 課長



全国大会16強の活躍で“文武両道”を印象づけた浦和高ラグビー部

# 家庭科との連携で 高校生に牛乳普及へ

埼玉県立浦和高等学校(ラグビー部)

×

埼玉県牛乳普及協会



「がんばる生徒たちを牛乳で応援できた」と話す金毛利教諭(左)



## “運動+牛乳”のメリットを発信

埼玉県牛乳普及協会では、県内の高校家庭科と連携した牛乳乳製品の普及活動に取り組んでいる。今年度から新たに、運動後の牛乳摂取の効果を実感してもらうプログラムとして、部活動での牛乳購入の助成事業を開始した。プログラムに参加した県立浦和高校ラグビー部で、担当教員や生徒たちの声を聞いた。

## 牛乳を飲む習慣づくりのきっかけに

同協会では高校家庭科との連携で、「牛乳料理コンクール埼玉県大会」「牛乳乳製品の購入助成」「骨密度と牛乳の栄養をテーマにした出張講座」の3つの事業を実施している。

購入助成は、授業での調理実習および家庭科クラブと運動部が対象で、助成上限はいずれも5万円。浦和高校ラグビー部は、運動部として最初の事例だ。

事業内容を紹介された家庭科担当の金毛利加代子教諭は、「運動後の牛乳摂取に関するデータを教えていただき、生徒たちにも自分の体で実感してほしいと思いました」と話す。

部の顧問と実施方法を協議し、部員のうち6人が、練習後30分以内の牛乳摂取(500ml)を週3回・16週間継続することにした。提供する牛乳

は、県産乳を扱う近隣の販売店に配達してもらった。

生徒たちが牛乳摂取を始めたのは、今年度の全国大会に向けた県予選の期間。「僕らを見て、コンビニで買って飲む仲間もいた」など、他の部員も積極的に牛乳を摂っていたという。

「6人は厳しい試合が続いても誰もケガをしなかった」というラグビー部は、3度目の全国大会に出場し、初のベスト16入りを果たした。

「全国大会で活躍したラグビー部員が牛乳を飲んでいたことは、他の生徒へのアピールになったはず」と金毛利教諭。「高校生になると、学校給食がなくなることで栄養バランスが崩れやすい。これきっかけに牛乳を飲む習慣が広がってくれたらうれしい」と話している。



### 牛乳の栄養機能を伝えたい

「Jミルクが発信している近年の研究成果の中で、運動後の牛乳摂取で体力向上という内容に着目しました。私自身が学生時代にサッカー部だったので、部活動を通じた実践が有効ではないかと考え、事業化したものです。骨密度が最大になる高校生の時期に、“体づくりにはいい栄養食品”という機能を意識して牛乳を摂ってもらうことが重要。今後も3つの事業を通じて学校現場への啓発を続けていきます。(埼玉県牛乳普及協会 事務局長 忍田行廣氏)



# 春を楽しむお手軽レシピ



監修: 小山 浩子 先生  
(料理家・管理栄養士)

乳和食の開発者。牛乳の減塩効果、和食との相性に着目し、テレビ、書籍、講演会などでその魅力を発信。2015年1月、日本高血圧協会理事に就任。

牛乳からつくるホエイの色はおもしろいことに微妙な違いがあり、これは牛のエサに關係しているのかなと思えますが、ホエイは水代わりに使うことで、栄養価がアップするだけでなく、料理の味も良くなります。今回はチーズにひと手間加えた魚料理をご紹介します。冷めてもしっかりおいしいですよ。

電子レンジでつくる

### ホエイとカッテージチーズ



#### 【材料 作りやすい分量】

牛乳 ..... 500ml  
米酢 ..... 大さじ2と1/2

#### 【用意するもの】

耐熱容器(あればハンドル付き) ..... 2個  
水切りネット  
(耐熱で抗菌処理をしていないもの) ..... 1枚

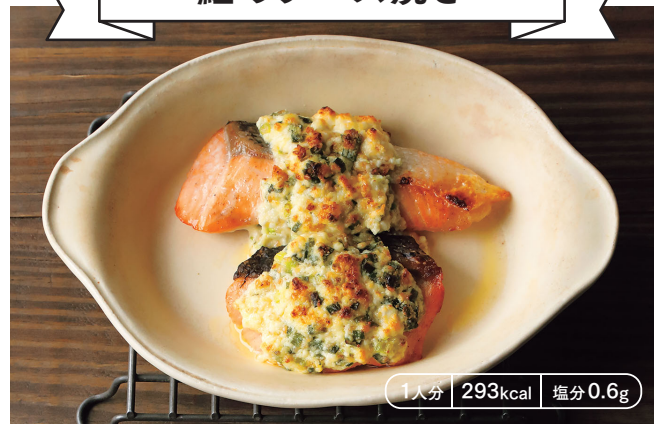
#### 【作り方】

- 1 牛乳を容器に入れ、ラップをふんわりかけて電子レンジで加熱する。(600W・5分)
- 2 ラップの表面に蒸気による水滴がついているかを確認し、少しだけあけて米酢を加えてラップをし2分待つ。(写真①、②)
- 3 スプーンで大きく数回かきまぜて水切りネットをかけた別容器に濾す。(写真③)
- 4 チーズが適度にホエイを含む程度がベスト。水切りのタイミングを見極める。(写真④)



カッテージチーズを使った

### 鮭のチーズ焼き



#### 【材料 2人分】

生鮭 ..... 2切れ  
白こしょう ..... 適量  
酒 ..... 大さじ1

A  
カッテージチーズ ..... 50g  
にんにく ..... 1/2片  
細ねぎ ..... 3本  
マヨネーズ ..... 大さじ2  
白ごま ..... 小さじ2

#### 【作り方】

- 1 鮭は半分になり、全体に白こしょうをふって、酒をかけておく。
- 2 にんにくはすりおろし、細ねぎは小口切りにして、Aを合わせる。
- 3 トースターかグリルで鮭を焼き、半分ほど火が通ったら2をのせて焦げ目がつくまで焼く。

ホームページでチェック!

他にも「乳和食のレシピ」いろいろ! →

乳和食

検索

f 「乳和食公式Facebook」はこちら↓  
<https://www.facebook.com/nyuwashoku>

調理動画も  
あるよ!



## NEW CONTENTS

の

お知らせ

### 乳和食指導者向け「調理指導マニュアル」

調理デモンストレーションにお役立てください

乳和食調理実習の企画から実施までの段取り、講師として実演するために必要な準備をマニュアル化。乳和食の伝え方のポイントや注意点を写真やイラストを使ってわかりやすくまとめました。

### 介護栄養士等向け「介護レシピ集」

病院や施設などの介護現場で使えるレシピが満載

低栄養を防ぎ、高血圧、筋力低下、骨粗鬆症などの予防が期待できる乳和食は介護食にもおすすめです。牛乳の味はほとんど感じさせません。簡単に作れて家族みんなで楽しめる介護食レシピのご紹介です。



# 2020年度「乳の学術連合」学術研究



「乳の学術連合」(牛乳乳製品健康科学会議／牛乳食育研究会／乳の社会文化ネットワーク)は、2020年度の学術研究(昨年10月より公募)の審査を行い、下記を助成対象に選定した。

乳の学術連合

## 牛乳乳製品健康科学会議

No.	氏名	研究機関名	職	研究課題名
1	二村 昌樹	国立病院機構 名古屋医療センター 小児科	小児科医長・シニア探索企画室長	人工乳早期摂取が皮膚バリア障害と食物アレルギー発症に与える影響
2	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院小児科	助教	乳児期のビタミンD投与による腸内細菌叢変化にαディフェンシンが及ぼす影響
3	山崎 輝美	富山大学エコチル調査ユニットセンター	特命助教	離乳期における乳製品の摂取が花粉症予防に与えるメカニズムの解明
4	林 大輔	公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院診療部小児科	専門科長	乳児期早期継続の人工乳摂取の食物アレルギー予防への影響の検討
5	木村 安美	九州大学大学院医学研究院附属 総合コホートセンター	講師	地域在住高齢者における牛乳・乳製品の摂取とサルコペニア発症との関連
6	宮川 尚子	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所・国際栄養情報センター国際災害栄養研究室	研究員	高血圧を有する被災地住民における乳製品摂取の有用性の検討
7	立木 隆広	中京学院大学・看護学部看護学科	准教授	牛乳・乳製品の日常的摂取はサルコペニアとフレイルの発生リスクを低減するかー大規模無作為標本コホート研究ー
8	成田 美紀	東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム	研究員	乳・乳製品摂取による高齢者の低栄養リスク改善効果の検証
9	貝原 奈緒子	人間総合科学大学 人間科学部 健康栄養学科	助教	乳幼児の鉄・ビタミンD不足に対するフォローアップミルクの効果
10	中村 彰男	実践女子大学・生活科学部	教授	糖尿病環境下での神経グリア細胞の慢性炎症と細胞死を防ぐ牛乳に含まれる脂肪酸の探索
11	大久保 剛	仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科	准教授	牛乳及び乳製品はコリン化合物摂取に役立つか?

## 牛乳食育研究会

No.	氏名	研究機関名	職	研究課題名
1	大貫 麻美	白百合女子大学 人間総合学部	准教授	「幼児を対象とした「乳」に関する理科読プログラムの開発と実践研究」
2	大橋 弘範	福島大学 共生システム理工学類	准教授	「中学生の官能検査と呈味成分変化の関連性」
3	今中 美栄	島根県立大学 出雲キャンパス 看護栄養学部	教授	「韓国と日本の食育における牛乳乳製品の価値観について～健康寿命延伸を目指すヘルスリテラシー教育の現状と課題～」

## 乳の社会文化ネットワーク

No.	氏名	研究機関名	職	研究課題名
1	児玉 徹	流通経済大学	准教授	米国における伝統的チーズ産業の推進を目的とした産学連携システムに関する研究
2	小島 和貴	桃山学院大学 法学部	教授	近代日本における保健所の活動と牛乳文化の形成
3	布谷 里紗	秋田県立大学 大学院 生物資源科学研究科		ミルクプラントを核とした酪農経営と市民・自治体・企業間の戦略的連携の検討
4	大竹 晴佳	甲南大学 文学部	非常勤講師	酪農に関わる女性の経営参画および社会参画の現状と課題ー岡山県の酪農地域を事例として
5	清水池 義治	北海道大学大学院 農学研究院 基盤研究部門 農業経済学分野	専任講師	中国酪農における非メガファーム経営の存立構造

## JAPAN MILK CONGRESS 2020 開催のご案内

「乳の学術連合」が得た最新知見や研究成果を集約的に発表し、国内外の研究者や関係者らが学術交流を図るイベント。今年は、「栄養サミット」(12月中旬予定・東京)との関連も意識し、世界的な栄養改善や持続可能なフードシステムなど、SDGsの観点から食料問題や栄養・健康問題を議論する予定。また、学術連合の研究成果もあわせて発表する。

開催日: 2020年12月開催予定  
会場: 東京大学・伊藤謝恩ホール(予定)  
定員: 400名  
主催等: 乳の学術連合、一般社団法人Jミルク(共催)ほか、政府及び国際機関、関連団体・学会等

# Meeting & Event Schedule

## 会議 & イベントスケジュール

年	月	日	曜日	開始時刻	内容	場所
2020	5	20	水	12:30~	監事監査	Jミルク会議室
		28	木	14:00~	第1回理事会	御茶ノ水ユニオンビル会議室
	6	1	月	10:30~	おいしいミルクセミナー(東京)	ベストウエスタンレンブラントホテル東京町田
		12	金	13:30~	定時総会 / 第2回理事会	ホテルグランドパレス
		17	水	10:30~	おいしいミルクセミナー(大分)	ホテル日航大分オアシスタワー
	9	24	木	15:00~	第3回理事会	KKRホテル東京
	10	3	土	10:30~	おいしいミルクセミナー(札幌)	札幌ビューホテル大通公園
	12	5	土	13:00~	牛乳ヒーロー&ヒロインコンクール表彰式	学士会館
		未定			JAPAN MILK CONGRESS 2020	東京大学・伊藤謝恩ホール(予定)
2021	1	15	金	12:30~	第4回理事会	御茶ノ水ユニオンビル会議室
	2	19	金	12:30~	第5回理事会	御茶ノ水ユニオンビル会議室
	3	5	金	12:30~	臨時総会・記者レク	KKRホテル東京

\*新型コロナウイルスの感染状況等により、日程は今後変更になる可能性があります。Jミルクのホームページ、SNS等で最新情報をご確認ください。

### 編集後記

新型コロナウイルス感染症が酪農乳業界にも多大な影響を与えています。関係各位の健康や経済活動等への影響がなくなり、感染流行が早期に収束することを願うばかりです。このような状況下ですが、少しでも多くの方々に情報をお届けしたく、「読みたくなる」「集めたい」「家に持ち帰りたくなる」をキーワードに、今号より誌面をリニューアルしました。Jミルクは、酪農乳業に関わる誰もが気軽に扉をノックして、相談したり情報を得られたりする場でありたいと願っています。新しくなった本誌も、そんな扉のひとつになれば幸いです。皆様からのご感想をお待ちしています。

✉ info@j-milk.jp

### 人々とミルクのつながりを 季節感のある表現で伝えたい

佐藤 香苗 さん  
(さとう かなえ)  
イラストレーター



2010年よりフリーランスのイラストレーターとして活動。シンプルで可愛らしくインパクトのある作風で、出版・広告・絵本・雑貨のイラストレー

ション制作のほか、ギャラリー展示やアートイベントへの参加など、国内外で幅広く活躍する。2014年、HB Gallery (東京)で初の個展を開催。2015年、Museums Quartier Wienの広告用イラストレーションが、オーストリアの広告アワードで「Silver Venus」を受賞。2018年、絵本『Happy Grumpy Loved』などをアメリカで出版。2019年、絵本『Tomi et ses amis poilus』をカナダにて出版。東京イラストレーターズ・ソサエティ会員。



## 2 特集

酪農乳業の未来を拓く戦略ビジョンが冊子に

[インタビュー]

乳・酪農には“価値”がある 若手に“好機”のメッセージ

小森 崇宏 氏(全国酪農青年女性会議 委員長)

## 5 基盤強化

2017~2019年度 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業の実績・成果について

## 6 ミルクバリューチェーン

“この指とまれ”の精神で地域の力を経営に生かす

対談 堀 初治 氏(株式会社ホリ乳業 代表取締役)

×

前田 浩史(Jミルク専務理事)

## 8 思いをひとつに

牛乳を通して学ぶ地域の魅力と食の大切さ

帯広市立森の里小学校 × 酪農乳業関係者

## 10 セミナー

2019年度ミルクの達人1Dayセミナー

～今こそ知りたいミルクの価値～

九州会場(宮崎県)/中国会場(岡山県)/東北会場(岩手県)

## 12 スポーツ栄養

家庭科との連携で高校生に牛乳普及へ

埼玉県立浦和高等学校(ラグビー部) × 埼玉県牛乳普及協会

## 13 乳和食(New-Washoku)

春を楽しむお手軽レシピ

■電子レンジでつくる「ホエイとカッターチーズ」

■カッターチーズを使った「鮭のチーズ焼き」

## 14 乳の学術連合

2020年度「乳の学術連合」学術研究

## 15 会議&イベントスケジュール

■表紙イラスト:佐藤 香苗 氏(イラストレーター)

■編集後記



一般社団法人 Jミルク  
Japan Dairy Association (J-milk)

J-MILK REPORT Vol.36 SPRING 2020 | 発行日/2020年4月 編集・発行/一般社団法人 Jミルク

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-20 お茶の水ユニオンビル5階 TEL 03-5577-7492 FAX 03-5577-3236

✉ info@j-milk.jp

🌐 https://www.j-milk.jp

📘 https://www.facebook.com/jmilkjp

📷 j\_milk\_official